



大学と企業の“本気の連携” を目指して

研究推進機構 産学官連携推進部門 部門長

金子 直哉

少子高齢化問題が深刻化する一方で、ICT、人工知能、ロボットを活用した Society 5.0 という新たなビジョンが提示されるなど、これからの大きな変革に向け、検討すべき様々な社会課題が生まれています。

そして、これらの課題を解決するための「大学と企業の“本気の連携”」が求められています。課題解決につながる新事業や商品を生み出すには、担い手である産業界の取り組みだけでは不十分で、これを支える優れた研究開発パートナーとしての大学の力が必要になるからです。つまり、課題解決の原動力となるイノベーションを引き起こすために、大学と企業が本気で連携することが強く求められているのです。

大学にとって、事業や商品創出を目指した企業の取り組みを支え、イノベーションに貢献していくことは、もとより容易なことではありません。しかし、こうした連携の中でこそ、他では得られない新たな研究課題が見つかります。つまり、企業との本気の連携は、大学の未来を拓く研究領域やテーマを設定するための有効な仕組みとして働くのです。

そのために、大学と企業の連携方法も進化します。これまでは企業との研究を研究者個人、もしくは少人数のグループで運営する形が中心でした。これからは大学が主体となり、研究の企画、提案、契約、推進を一体的に運営する形に変わっていきます。

横浜国立大学は「実践的学術の国際拠点」としての発展を目指し、企業と本気の連携を構築します。そのための前提として、本学の強みや特徴を様々な形で産業界に発信します。「産学連携パートナー・発掘ガイド 2018-2019」は、その中でも最も充実した情報源であり、今回、二年ぶりの刷新を行いました。本気の連携を構築するパートナーとして、158名の教員の活動が記載されています。是非、ご活用下さい。